

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 698 号] 2020 年 8 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 698

August 2020

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 新型コロナ問題と荻窪の街

小海 基 (団員: テノール)

今や世界中を脅かし、出口のなかなか見えない新型コロナ問題であるが、振り返ってみれば日本国内で最初の感染者が確認されたのは1月16日だったという。それがどうも中国湖北省武漢あたりが震源地らしいという噂が広まり、それでは毎年旧暦の正月に、日本に医療や観光で訪れる中国人客はどうなるのだろうと話しているうちは、まさか地球規模でこんな事態になるとは誰も想像もしていなかった。横浜に停泊していたダイヤモンドプリンセス号の感染対策の混乱ぶりが報道されて、この国の政府の対応は、実はどうしようもなく「東京オリンピック」優先で、検査もおざなりで、なるべく「悪い噂」を立てず蓋をしておもうという姿勢に過ぎないのだと感じざるを得なくなったのが、2月末の根拠不明の「小中高一斉休校」通達と、なかなか届かなかった「アベノマスク」騒ぎ……。

東京バッハ合唱団の「月報」にそんな一般論をぼやいても仕方あるまい。ここでレポートしておこうと思うのは、それが(杉並区)荻窪というこの街にどういう文化的影響をもたらしたかという、極めて狭い地域での記録である。

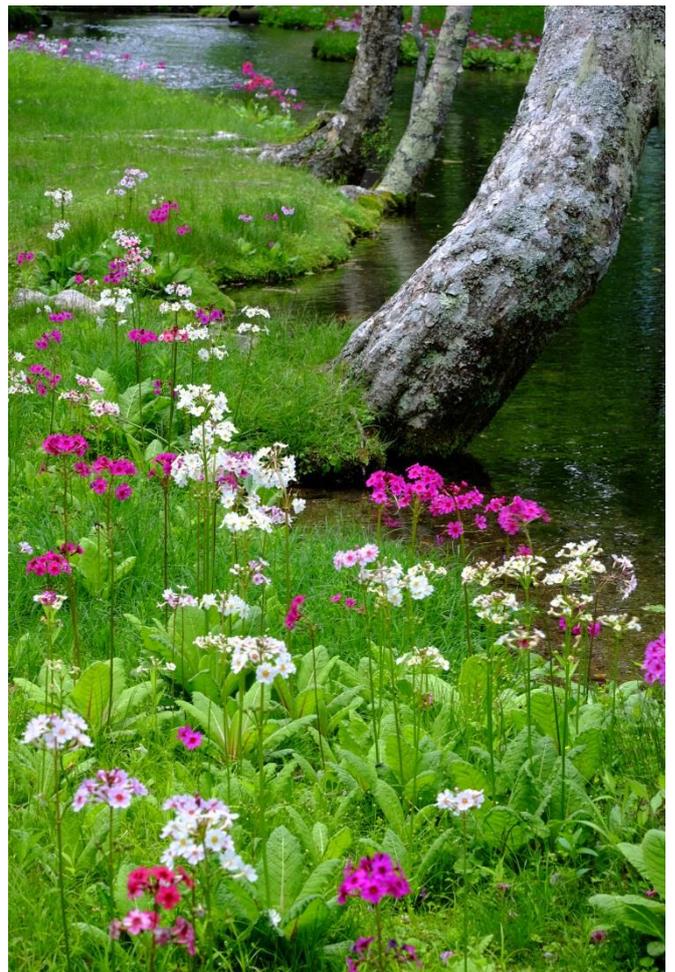
受難節(レント)も深まり、この時期あたりから例年なら、この街ではJ.S. バッハの教会カンタータが流れるようになる。本場ライブツィヒと並ぶか、あるいは凌いでるかもしれない近年恒例の風景である。

今年も、3月22日に西荻窪の本郷教会を会場に、東京シュッツ合唱団の Soli Deo Gloria (主催: 淡野弓子・太郎氏) が教会カンタータ BWV80a を演奏するのを皮切りに、7月まで教会カンタータが毎月連続演奏されるはずであった。その中には、古楽器グループが荻窪教会を会場に行う予定だった教会カンタータ BWV82 や、同じく荻窪教会で7月25日に予定していた、わが東京バッハ合唱団のコンサートも当然のように続いていたはずだった。このときの曲目は、この夏のシーズンに計画していた信州コンサートツアーでの4曲の教会カンタータ (BWV78、93、113、184) をお届けすることになっていた。

ところがである。今年は3月22日の本郷教会の Soli Deo Gloria 公演で止まってしまったのである。そもそ

も東京シュッツ合唱団の名の由来である作曲家ハインリヒ・シュッツ (1585-1672) はペスト時代の人であることもあり、主催の淡野弓子・太郎両氏は新型コロナ流行下でも十分な対策を取って公演を続ける決意であったようだ。公演に聴衆の一人として立ち会った私にもひしひしと伝わってきた。しかし4月7日に「緊急事態宣言」が出され、涙を吞んで今年はたった1回の公演で休止を余儀なくされる。会場の本郷教会ももちろん礼拝休止となる。荻窪教会も4月10日の受難日祈祷会を最後に礼拝・諸集会・総会を休止し、再開は5月31日のペンテコステ礼拝からとなる。杉並区内では杉並公会堂も閉鎖となり、予定されていたコンサートが全て休止という事態となる。

休止の影響による飲食店は本当に深刻な被害で、多くの店が廃業・撤退を余儀なくされる中、いつも東京バッハ合唱団がコンサートの打ち上げで使う中華料理



■夏の花—クリンソウ(九輪草)の群落。撮影・千葉光雄(団員)

### 月報 2020 年 8 月号 CONTENTS

- ・創立 58 周年を迎えた東京バッハ合唱団 (加藤剛男) …p. 2
- ・野尻湖合宿を思う (松尾茂春) …p. 3-4

の「香酒縁」は、さすがにたくましくこの荒波を乗り越えることができたのは喜ばしい限りである。

荻窪の知的文化で本当に取り返しのつかない痛手であったのは、駅南口にあった荻窪で最も大きな古書店「ささま書店」がこの新型コロナ騒ぎで廃業してしまったことである。

そうした中で、6月以降、荻窪教会礼拝堂から再びバッハの歌声が流れ出したことは、近所の人々の間でも喜ばしい出来事として評判となっている。ワクチン開発がなされていないので、まだまだこれからも新型コロナの不安は続き、第2波、第3波が気になるところであるけれど、荻窪の街に定着し、芽を吹きつつあったバッハの教会カンタータの歌声を、町の人たちは待ちわびているのは確かである。ぜひクラスターを起こすことなく、無事に年末の《クリスマス・オラトリオ》公演へと向かえることを願ってやまない。

(日本キリスト教団荻窪教会牧師)

## 創立 58 周年を迎えた 東京バッハ合唱団

加藤 剛男 (団員：バス)

2020年7月に東京バッハ合唱団は、創立58周年を迎えました。「バッハの高さと広さの両面を忠実につたえ、芸術家のためと同時にもっと幅広い一般の人々のためにも存在するようになること……。バッハの音楽をとおしてみんなが心を開きあい、通わせあうこと」(1963年1月、第1回披露演奏会・芸術家会館ホールでの大村恵美子先生のご挨拶から)という使命のもとに、恒久的なバッハ演奏を目指して始まった東京バッハ合唱団。

これまでの58年間の合唱団の歴史を振り返ることにより、主宰者・指揮者であられる大村恵美子先生の高なされた偉業をたどってみたいと思います。

① バッハ演奏の草分け：東京バッハ合唱団は、1962年に大村先生によって創設され、バッハの作品のみを演奏する日本でも稀有な合唱団。当時としてはバッハ演奏の草分け的存在でした。

② 日本語訳詞の演奏：常に、大村先生の日本語訳詞により演奏されてきました。バッハの音楽を大衆に根づかせ、演奏者と聴衆の一体感を実現しました。とくに《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》などの演奏会において、日本語訳のバッハだから曲の内容が伝わり、感動が与えられたという感想をいくつもいただいた。

③ 錚々たる講師を招いてバッハを研究：辻壮一、服部幸三、深津文雄、角倉一朗、高橋昭、東川清一、杉山好、磯山雅、樋口隆一各氏らのバッハ研究者を招き、バッハ作品の内容をより深く理解するために、研究会・ゼミナールが開かれました。

④ 「月報」を1号の欠号もなく発行：創立時より月報を発行し、その中でバッハの音楽、文学、哲学、社会、政治、教育、人間の生き方が示され、貴重な示唆が与えられました。

⑤ ヨーロッパ演奏旅行を実施：第1回は1983年、わが国のアマチュア合唱団として初めてライブツィヒ聖トマス教会で演奏。その後も数年おきに続け、2009年に第5回(フライブルクとシュトゥットガルト)を実施。

⑥ 歴大な演奏経歴：1962年から2020年までの演奏履歴は歴大なもので、定期演奏会を中心に示してみますと以下の曲目数です。教会カンタータ100曲以上、世俗カンタータ3曲、モテット全6曲、ミサ曲(ロ短調、ト短調、ト長調)、マニフィカト(ニ長調、変ホ長調)、受難曲(マタイ、ヨハネ、マルコ)、オラトリオ(クリスマス、復活節、昇天節)、宗教歌曲集(リートとアリア)18曲など。なかには数回の再演も多数。

⑦ ソロカンタータ全曲演奏：バッハのソロカンタータを全曲日本語訳で上演。全曲演奏は日本で初。

⑧ 1979年から大村恵美子先生指揮：合唱団の初期の頃は、小林道夫先生初め様々な指揮者により演奏していただきましたが、1979年より主宰者である大村先生が指揮をされることになりました。大村先生の一貫したバッハの音楽に対する高い理念とそれを推進する強い実行力により、合唱団もますます充実し、発展してまいりました。

⑨ 創立50周年記念公演：合唱団創立50周年記念企画として、2011年～2014年に「バッハ4大合唱作品 [日本語] 連続演奏」を実施。

《ロ短調ミサ曲》(2011.12.3、杉並公会堂)

《クリスマス・オラトリオ》(前半2012.11.9、後半2013.12.7、いずれも杉並公会堂)

《マタイ受難曲》(2013.3.30、紀尾井ホール)

《ヨハネ受難曲》(2014.3.15、杉並公会堂)

⑩ 日本語版カンタータ楽譜の出版とCDの発行：わが国でのバッハ・カンタータ普及を期し、ドイツ・ブライトコプフ社の協力を得て、2000年より大村恵美子訳・日本語歌詞つき楽譜の出版を開始し、2004年までに「バッハ・カンタータ50曲選」として代表作50曲が出版されました。その後も公演スケジュールと並行してカンタータの楽譜出版が継続されています(既刊81曲)。

⑪ 『バッハ コラール・ハンドブック』出版：バッハの教会カンタータや受難曲、オラトリオ、モテットなどに用いられるコラール全154曲の各曲に、歌詞(原詞と訳詞)旋律譜などを付けた『バッハ コラール・ハンドブック』が刊行されました(2011年3月、春秋社)。世界でも類を見ない内容の画期的な出版で、バッハ演奏家、研究者に必携のハンドブックです。

⑫ 『バッハ宗教歌曲集 [日本語演奏] 名演20選』発行：定期演奏会のアンコールで歌われたソリスト

11 名による「バッハ宗教歌曲集」名演 20 選の夢の饗宴。CD1 枚と通奏低音つき楽譜（日本語/ドイツ語歌詞併載）が出版されました。同じ曲でも複数のソリストによって歌われているものもあり、表現の違いを知らされます。価値ある発行です。

合唱団新設にあたって、大村先生は「どこはさておいてもここだけはネグるわけにはゆかないというふうになれたら……」（月報第 1 号・1962 年 7 月）と述べておられます。私も 58 年間、先生のご指導のもと、東京バッハ合唱団だけはネグるわけにはゆかない合唱団、として歌って来ましたが、その中で与えられた宝は計り知れません。58 年間になされた先生の偉業がさらに積み重ねられていき、先生指揮のもとに演奏されるバッハの音楽が、これからも一層人々に感動を与えていかれますようお願いしてやみません。

（2020 年 7 月 1 日）

### 大村恵美子 [著] 『バッハの音楽的宇宙』

2020 年 6 月・発売

電子書籍版（丸善出版）

価格 1000 円 + 消費税

#### お求め先

- 丸善雄松堂 Knowledge Worker (ebooks) :  
<https://kw.maruzen.co.jp/ims/itemDetail.html?itmCd=1031850234>
- 大学生協 Varsitywave eBooks :  
<https://coop-ebook.jp/asp/ShowSeriesDetail.do?seriesId=MBJS-371727>

## 野尻湖合宿を思う

松尾 茂春（団員：バス、写真とも）

東京バッハ合唱団は、J. S. バッハの合唱作品を日本語訳で歌うという軸足をぶれさせることなく、今日まで確固たる歩みを続けてきた。その活動の中心は練習、また演奏会であることは言うまでもないが、加えて他の様々な企画・イベントも、活動を支え、推進し、また豊かで多彩にする力となってきたと思う。その中でも、特に毎年夏に行われてきた野尻湖合宿は、語らぬにはおられない魅力的なイベントと思う。

思い起こすと、実は入団した年の夏、まだ参加さえ未経験だったその野尻湖合宿の係をいきなりお任せだったのだった。大学のクラブ活動等のような、全員ほぼ一律の参加条件と異なり、ここでは年齢層も幅広く、参加期間の差異、宿泊・食事有無など参加者ごとの多様性が大きいので、かなり大変だったはずだが、記憶には瑞々しく心踊る様々な体験の思い出ばかりが煌いている。



■1977 年、初参加の野尻湖合宿。演奏会場（神山教会）までは「宿の前から船で出港」（筆者は前列左から 3 人目、しゃがんでいる）

正面に黒姫山を臨む爽やかな湖畔での伸びやかな練習、自転車での湖畔の散策、ボートを漕いでので弁天島往復と島内探索——当時は泳ぐ人も多く、水上スキーをする女性団員の姿の記憶もある。夜は眼前の湖面の水の音を聞きながら遅くまで語り合った。

演奏会当日には、宿の前から船で出港（当時は可能だった）、湖を横切り、NLA（野尻湖国際村）の栈橋で下船して高台の神山教会への坂を上り、準備とリハーサル。開演前の待機時間での不安と期待、次々と集まり始めた人々の顔ぶれを見るうちに、いつの間にか海外のどこかの国に来ているような錯覚を覚える不思議さ。そして、屋外の虫の音とも相和すバッハの演奏が始まる。その年は、バスの渡邊明先生によるソロ・カンタータもあり、客席からもギャラリーからも暖かく盛大な拍手をいただいた。

この時のわくわくする鮮やかな体験が、その後バッハ合唱団と共に歩む原動力の一つになったと感じている。翌年以降も欠かさずこの合宿に参加し、真夜中にボートを漕ぎ出して（今は禁止だが）波のない油のような湖面に映る岸辺の明かりを見たり、真っ暗な山中の坂を上って流れ星を探したり、自転車で湖を一周したりと、印象深い体験を積み重ねてきた。

やがて結婚後は、長男が 2 歳となった年以降 10 数年間、家族連れで毎年この合宿に集わせていただいた。両親が練習する間、子供たち 3 人は湖畔で気ままに遊

■同上リハーサル。BWV46, 56, 64, 116。背景は田中忠雄作品、43 年後の今も変わらない。指揮は渡邊明先生、リコーダー鈴木徹太郎氏（昨年ご逝去）





■1980年(40年前)の野尻湖合宿参加者(前列左から4番目が大村先生)。この年は、5月定期演奏会(BWV4, 12, 18, 106; 石橋メモリアルホール)、8月野尻湖(BWV4, 63, 131)、10月長崎市内3公演(レデンブトリスチン修道院、長崎銀座町教会、長崎バプテスト教会; BWV4, モテット 230, ミサ曲 236)、11月南林間(高座教会; 長崎と同曲)、12月定期演奏会(BWV63, オラトリオ BWV248 後半; 石橋)と、多忙な企画をこなしている。前年から大村恵美子先生の常任指揮時代が始まり、休む間のない旺盛な演奏活動が開幕、3年後には第1回のヨーロッパ演奏旅行も実現した。

び、釣りもし、早朝には有志でテニスコートに出かけ、ミニコンサートで家族一緒に演奏することもあった。演奏会当日にはプログラム渡しのお手伝い、演奏中は観客の一員となるなど、子供たちにとっても得がたい貴重な経験ができたと思う。帰る田舎を持たない我が家にとって、野尻湖が毎夏訪れる田舎のような存在だったとも言える。

合宿の要素には、年とともに変化するものもあった。船での移動は、その後モーターボート、今ではバスと変わり、練習会場は湖面に浮かぶ「竜宮城」を経て岸辺の食堂となり、企画としては町でのワークショップが加わり、演奏会は小布施公演、さらに追分公演と拡大している。

期待して臨んだ今年の合宿が新型コロナ・ウイルス対策で1年延期となったのは大変残念だが、事態が収束あるいは穏やかな共生に向かい、来年以降あの湖畔での充実した日々が復活し、未来に続けられて行くことを願ってやまない。〈了〉

■2002年(18年前)、メンバーの顔触れもだんだん今日に近づいてきた、お子様方も大きくなって……。大村先生は中段左から3人目、筆写右端。この年5月には創立40周年記念公演として《ロ短調ミサ曲》を“原語”で上演(石橋メモリアルホール)。そのわけは、大村訳の日本語歌詞がまだこの世に存在しなかったから。“日本語”《ロ短調》は2012年に創立50周年記念公演として本邦初演。この野尻湖ではBWV104, 124のほか、珍しいハチャトリアン《クラリネットとヴァイオリンとピアノのためのトリオソナタ》も披露された。CI 内田厚志, Vn 小田幸子, Pf 内田亜希。



#### <次回公演ご案内>

後援会員、サポーター、団友、月報読者の皆様

新型コロナ感染症拡大の最中、半年先・1年先の計画も確かな内容としてお知らせできないもどかしさを覚えます。事態は深刻化を増していますが、当団としては、実施の可否、開催形態の選択等々の決定のリミットを8月中と定め、十全の準備を進めております。成りゆき如何にかかわらず、いっそうのお励ましを賜われますようお願いいたします。

#### ◆第119回定期演奏会

[日時] 2020年12月6日(日)、午後7時開演

[会場] 三鷹市芸術文化センター・風のホール

[曲目]

・カンタータ第110番《喜び 笑い あふれ》

・《クリスマス・オラトリオ》第1~3部(全曲)

[独唱] 光野孝子(ソプラノ)、野間 愛(アルト)、平良栄一(テノール)、山本悠尋(バス)

[演奏] A R S コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン(オーケストラ)、中澤未帆(オルガン)

大村恵美子(指揮)

※入場券などの詳細は、9月初旬までに公表します。

#### <次々回公演予定>

下記2企画は、いずれもコロナ禍で1年延期を余儀なくされた、本年7月予定の都内2公演(三崎町教会、荻窪教会)と8月予定の信州3公演(野尻湖神山教会、軽井沢追分教会、小布施ミュージアム)の代替公演となるものです。いずれも内容は流動的ですが、関係者の皆様ともども、ご理解を賜われますようお願いいたします。

#### ◆第120回定期演奏会

[日時] 2021年6月(土曜日、午後2時開演)

[会場] 都内または近郊(2箇所を確保済み)

[曲目]

・カンタータ第113番《イエス 高き宝》

・カンタータ第93番《ただ主に依り頼み》

・カンタータ第78番《イエス わが心を》

・カンタータ第184番《待ち望みたる 喜びの光》

#### ◆野尻湖合宿・信州コンサートツアー2021

[日時] 2021年8月5日~8日(木~日)

[会場] 今夏予定の上記3会場(詳細調整中)

[曲目] 上記4曲より、各会場ごとにプログラム

[演奏] 独唱は、今夏のソリスト方を中心に、第120回定期演奏会と信州ツアー2021とに、それぞれ再編予定 A R S メンバー(室内楽)、中澤未帆(オルガン)

大村恵美子(指揮)

#### 編集後記

「編集後記」というものを、多分、初めて書かせていただきます。今回は、3名の団員が、コロナ禍の荻窪の風景、読み上げるはずだった創立記念日の祝辞、楽しかりし日々の野尻湖の思い出を、寄稿していただきました。奇しくもみなさんの思いは「願ってやまない」で一致。無事の公演と、感動の継続と、充実の日々の復活を、願ってやみません。(K)